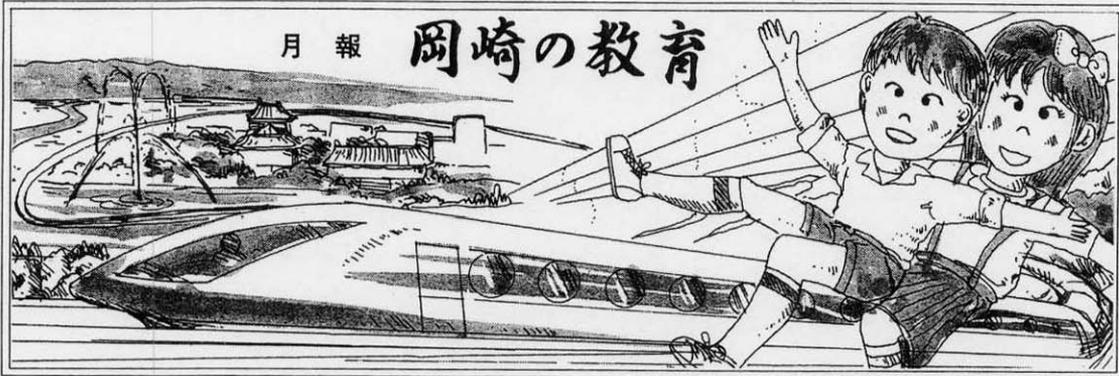


# 月報 岡崎の教育



## 12月号

平成元年12月1日

発行／編集

岡崎市教育委員会

ボンツ ジャツ ジャツ ジャツ ジャツ……

「私は この音が好き」

さわやかな朝 竹が踊る

光と風に 足が跳ねる

「キヤーツ」

悲鳴の伴奏

そして加わる笑い声

右・左・右・両足……

外・中・中・中……

「今日のダンスはちよつとむずかしい」

竹を握る手

地面を蹴る足

快い緊張の頬・頬

ピーツ

「やったね 一度も間違えなかったよ」

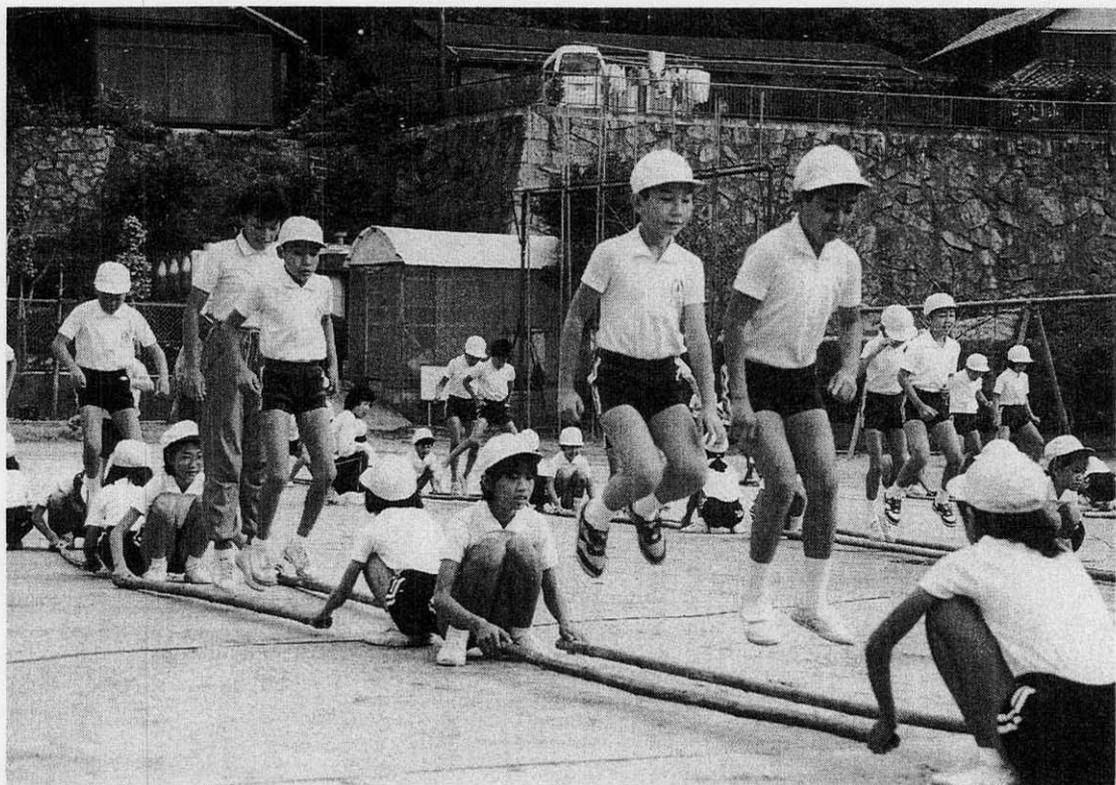
しみがみ込んでしまった腰

汗がにじんだ顔

満ち足りたその笑顔から

今日が始まる

〈竹と踊る〉



(朝の運動—全校バンブーダンス—秦梨小)

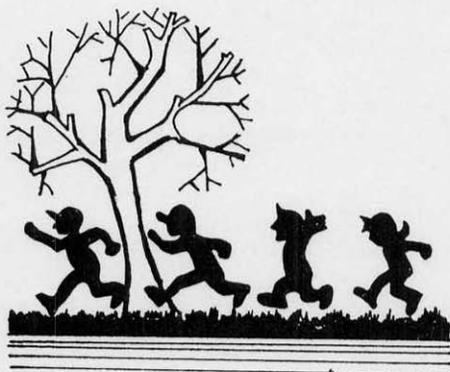
「この頃はがまんのできない子が多い。」との歎きをよく聞く。先頃、県内某市の教育委員会の手伝いで、幼児期家庭教育についてのアンケートを実施した。三歳の子どもをもつ親を対象の調査であったが、自分の子どもについて気掛かりなことをきいたところ、性格面で「わがまま」「甘え」と答えた親が約三〇%あった。「がまん」については選択肢を設けなかったので直接的には出てこなかったが、

## — 教育随想 —

「がまん」の  
できない親

糸 幸 男

「わがまま」で「甘える」のは「がまん」のできないことの証拠とも見える。しかし、ことは三歳児である。成長発達の見点からすれば、丁度この頃は自我が芽生える時期である。我を張り見極めもなく自己を主張する。「わがまま」そのものである。反面、まだ幼く、事あればすぐに甘えてくる。がまんせず我が意のままに振舞ってこそ三歳児なのである。



「わたしが強く、我を張る」ことから「やせ我慢、強がり」に転じ、今一般に使われる「辛抱」の意になったようである。辛抱としての我慢は自己抑制の行動である。子ども自己抑制力は、自分のしたいことをしただけする、その中で他児とぶつかり合い妥協や服従の体験をする、その繰り返しを通して育つ。頑固に「我を張り」「強がり」をいい「やせ

この子どもに、素直で聞分けがよくがまんのできる子の姿を求めるとしたら理不尽な話である。やがてこの子も成長につれてがまんも聞分けもできる子に変わっていく。それを待つのが親には難しい。先取的な要求は子どもには迷惑だ。「がまん」は「我慢」と書く。仏教語で「我をよりどころ」として心が懦弱であること」（江戸語の辞典）の意という。がまんとは「自ら高ぶること」の意であ

我慢」しながら「辛抱」し耐え抜く力をつけていく。それには子ども同士、共に遊ぶ機会や場が必要なのだが、様子が大変変わってきている。

先刻、発達状況を知る手がかりとするため、発達過程で一般的によく見られる子どもの行動を抽出してみた。最近の幼児には従来よくあった、二輪車に乗る姿はない。鬼ごっこもかくれんぼもない。その陰に「塾」や「教室」通いがあるかどうかは知らない。幼児の生活としては気になるころではある。

子どもは他所の家で遊ぶとき、自分の家では全く不要の我慢や辛抱を強いられる。その中で我慢の心や態度は育つ。しかし、親たちは、他家の子どもが上がりこんできて、家中に物を散らして遊ぶのに中々「がまん」できないようである。

子どもは模倣の名手である。親た通りを遊びの中で再現する。幼稚園や保育所での子どもの様子を見れば、親の日常は手にとるように分かる。子どもに我慢を求める親は、子どもの前で自ら「がまんの姿」を見せているだろうか。交差点で「信号待つのが我慢できず、赤信号につつまんで来る車の多さを考えても、現実には悲観的である。

昨今の子育てを見るとき、子どもの本質の認識と、子どもの成長のために親のする「がまん」の必要さを痛感させられること、しばしばである。

(名古屋市立保育短期大学 教授)



## 授業記録

社会科指導員

梶尾長夫

先だって、K中学校で社会科の授業をする機会を得た。指導員の授業研究の一環として行われたものであり、先生方が分担し、授業記録をとってくださった。

後日、その授業記録をもとに、分析、考察する会が二回開かれた。記録を読み直すにつれ、問題点が見えてくる。疑問点をもたせ、問題を引き出すことはできたものの、鋭い追究には発展していかなかった。先生方の意見は当然、そこに集中した。

授業記録の方法には、文字による記録、録音テープ、写真、ビデオテープなどがあるが、一番の基礎になるのは、やはり文字による記録である。それは前後を逆にさかのぼってみることも、離れた部分と結合することも、いくつかの要素をほとんど同時にみることも、補筆や書き込みをすることもできる。

研究は具体的な事実から出発すること大切である。具体的な事実から出発し

ふるさとシリーズ

この人に聞く



謡曲

梨本秀治氏

日本の古典芸能の一つに謡曲がある。松の絵一つを背景にした簡素な舞台で演じられる能楽は、日本独自の文化である「わび・さびの世界」の雰囲気をかもし出す。今回は、この道を四十年間も歩まれ、今なお、観世流電城会を主宰されている梨本秀治氏をお訪ねした。

この道に入られたきっかけを、  
「空襲で妻と三男を亡くしましてね。残された三人の子を育てるためにも何とかして長生きしなければと思って始めました。たまたま、私の先祖が謡曲を行っていたということもありました。……。その時、私は四十歳、昭和二十

五年頃のことでした。」とおっしゃる。四十歳から始められたとは驚きである。また、今日に至るまでの歩みを、次のように語られた。

「初めは、ある会社のクラブ活動として行っていました。そこへ、能見に住んでいた方が後援してくださるという話がわき、独立することになりました。弟子の方も、教育界、実業界等からたくさん紹介していただきました。現在は百八十二名にもなりました。もともと、この数は名簿上のものですが……。」

言葉の端々に、いろいろな方の名前が次々と出てくる。氏の幅広い交友関係を知らることが出来る。謡曲を通して得た、人と人との出会いを大切にしてみえる。

「謡曲の魅力は何でしょうか。」とお聞きすると、しばらく考えられて、「一口では言えないですね。礼儀作法は大変厳しいですし……。あえて言えば精神的苦痛から解放してくれるということですか。一曲吟じると体がせいせいします。謡曲は発声が第一、腹の底から声を出しますからね。弟子の中には顔面神経痛が治った人もいますよ。」と答えられた。一般にはなじみの薄い分野だけに多くは語られなかったが、謡曲の魅力は全身の力を一つの声に託して自己表現することにあると感じた。

指導は、基本の形を教えることに徹しているとのことである。それ以外は、自分の目で他人の芸を見たり聞いたりしながら学んでもらっているそうだ。

「辛抱のできない人、落ち着きのない人は、やはり長続きしませんね。」とも言われた。教えることは何か、子供たちの将来を考えた時、今、教えないければならないことは何か、その一側面を知らされた思いである。

「若い人がなかなか入らなくなってますね。謡曲を楽しみにしている人は、五十・六十歳代の方がほとんどです。女の人は結婚するとやめてしまわれるし……。」後継者の不足が悩みと、物静かに淡々と語られる。その口調と鋭い目つき、柔和な笑顔の表情の中に、この道一筋に歩んで来られた人の、自信と誇りと味わいを感じ取ることができた。



たものであれば、必ず共通の問題に焦点づけられ、核心にふれる問題を見出すことができる。授業研究における具体的な事実とは、授業の記録である。

**明朝、五時に起きなさい**

保健体育科指導員  
大久保 慎一

九日間の「親善使節団」の後半はニューポートビーチでのホームステイである。二日目の夜だった。この家の女主人、ステファン先生に言われた。「ミスター大久保、明日の朝五時に起きなさい。」疲れがピークに達しているのにとんでもないことを言う。理由を聞くに「六時から朝練を始めるから見学に来い。」と言うのである。日本流に言えば、ステファン先生はエンセン中学のバスケットチームの二軍監督なのである。先生が二軍の監督とは驚いた。ましてや六時からの朝練にはびっくりだ。好奇心はあったが、体があることをきかない。その日の目覚めは八時過ぎ、絶好のチャンス逃がした。

その夜、今度は二日後に組まれた練習試合の作戦を練ることになった。ステファン先生の作戦は三つ。それに加えて、私の提案した「スクリーンプレー」が採用された。図を書けば通じるのである。

いよいよ練習試合。二人で考えた作戦など、子供たちの技能からすれば全く使えるしろものではなかったが、二十八対四で快勝。たぶん朝練の成果であろう。アメリカにも「朝練」がある。



# G'グッダイ day! Okazaki

## オーストラリア

### ビクトリア州バーモントスクールから親善訪問

#### 一行の主なスケジュール

- 9月23日(土)  
・岡崎到着
- 9月24日(日)  
・六ツ美中体育大会に参加し、各種目に出場
- 9月25日(月)  
・六ツ美南部小学校訪問
- 9月26日(火)  
・六ツ美中学の授業へ参加、六ツ美中部小学校訪問
- 9月27日(水)  
・市役所、井田小、常磐小へ
- 9月28日(木)  
・デザイン博覧会見学
- 9月29日(金)  
・少年自然の家で広幡小児童と共にキャンプ
- 9月30日(土)  
・岡崎公園と、世界子ども美術博物館見学
- 10月1日(日)  
・ホストファミリーとの休日
- 10月2日(月)  
・六ツ美中学の写生会と華道部の活動に参加
- 10月3日(火)  
・京都見学
- 10月4日(水)  
・奈良見学
- 10月5日(木)  
・六中お別れパーティ・帰国

愛知県と友好提携を結んでいるオーストラリア・ビクトリア州のメルボルン市バーモントスクールの生徒たちが、九月二十三日来岡。二週間にわたって岡崎の児童・生徒たちと交流を深めた。一行は小学生六人、中学生二人、それに引率女教師二人の総勢十人。ビクトリア州のネットボールのチャンピオンチームである。六ツ美中学校の生徒たちの家にホームステイして、授業や体育大会・写生大会など、日本の学校生活を体験した。

また六ツ美南部・六ツ美中部・井田・常磐小を訪問してバスケットボールに似たネットボールを紹介したり、クラブ活動や児童会主催のイベントに参加した。少年自然の家での広幡小学校のキャンプにも参加して、落ち葉スキーやキャンプファイアーに歓声をあげた。

世界子ども美術博物館訪問の折には、ビクトリア州の生徒たちが描いた素晴らしい絵画作品の贈呈があり、ホストファミリーの生徒たちと共に、E B アートを作って楽しんだ。

一行は十月五日夜、岡崎での数多くの思い出を胸に、帰国した。

#### ホームズ先生

想像以上の歓迎に深く感謝しています。特にお世話になった伊豫田教育長先生、渋谷校長先生に厚く御礼申し上げます。アトキンソン先生

温かい歓迎に感謝の言葉もありません。私たちの学校へはいつ来てくれますか。ブリー・マーティンさん

美しい岡崎公園、手渡して鳩に餌をやる姿が印象的でした。リズ・ジェミーソンさん

体育大会、最高でした。「アリガトウ」メガン・アーサーさん

生活の仕方がとても違っていた。アリサ・アトキンソンさん

キャンプがとても面白い、楽しかった。サラ・ファーマーさん

出会った人は全部覚えていきます。ルイズ・バッキンガムさん

床のうえに座るのが大変でした。クレアー・クラベンさん

六ツ美中学での家庭科で、縫い物をして、料理をしたり、みんな親切でした。キム・トロピアニさん

日本の人たち、みんな大好きです。



▶「こうやって……ソライエス」と折紙を教える六ツ美南部小児童の指導はなかなかのもの



▲井田小児童会役員と楽しい給食を連発

▶初めての落ち葉スキーに興奮「エキサイティング」ファンを連発



▲六ツ美中部小ではクラブを参観草履作りに興味津々



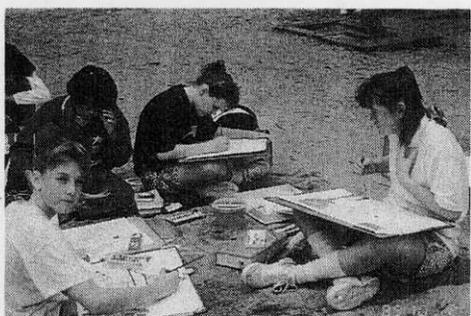
▶サバイバル的なオーストラリアのキャンプとは違う広幡小のキャンプに参加し、大はしゃぎ



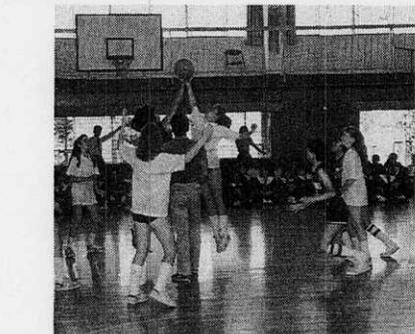
▲常磐小の体育館でゲームを楽しみ、大歓声



▶六ツ美中の生徒と共に写生大会のチームのユニフォームのスコートを身に着けて運動会に参加大玉送りは珍しいので大喜び



▶ピクトリア州の子どもたちが描いた絵画をお土産に、岡崎世界子ども美術博物館へ



▲六ツ美中バスケットボールチームと親善試合。彼女等は小学生がほとんどなのに中学三年の六ツ美中チームと終始熱戦を展開



▶ピクトリア州の子どもたちが描いた絵画をお土産に、岡崎世界子ども美術博物館へ

## 一人ひとりの 考えを大切に

岩津小 内田 尚之

「子供の個性を大切に、一人ひとりの考えや気づいたことを尊重した授業」私はこういう授業を創りたいと考えている。

この授業創りの核は、国語を例にとつて端的に言う、「教材に出会った時の初発の印象を大事にして授業を展開する」とことになると思う。この授業を、『大造じいさんとがん』（五年）を例に紹介しよう。

初めに、二度朗読を聞かせた。続いて、自分の気に入った場面の引用文とその場面の絵、それについての初発の感想を画用紙にまとめ（全員分掲示）、これ



を以後の指導の中核にすえて授業を展開していくことにした。

まず、この印象に残った場面と初発の感想をもとに、これから学習していきたい課題を各自で作った。できた学習課題は十個に大別されたが、そのうちの主なものは次の二点であった。

- ・銃でねらった大造じいさんは、その後なぜ銃をおろしたのか。
- ・大造じいさんは、せつかく残雪をつかまえたのに、どうしてまたがしたのか。

次に、この学習課題をもとにひとり調べを行った。単なる自分の想像ではなく、その根拠を本文から引用して、自分の考えを書くようにした。

全員のひとり調べが終わった後、物語の時間的経過に合わせた課題を全体で追求していった。

「銃でねらった大造じいさんはその後なぜ銃をおろしたか」の課題では、ひとり調べて自分の考えを持ち、それを十分に深めているだけに、意見がたくさん出て、次のような三つの派に分かれて討論された。

〈K派〉残雪に助けられたのが、大造じいさんのおとりのがんであったから、うたなかつたら、おとりのがんでなかったら、うっていたと思う。(十一名)

〈T派〉命がけて、仲間を助けようとした残雪に心を打たれた。

おとりのがんでなくても、うたなかつたらどう。(二十七名)

〈N派〉残雪がはやぶさと戦っている時にうたつたって、自分の力でうたつたことにはならない。(六名)

一人ひとりが自分の考えを持つて、他とかかわり合う授業が、子供の考えを深めるのである。

## 教育日々



### 意外なエネルギーの燃焼

常磐中 山本 由美

「すげえ。」

五班の群読の発表が終わると、ため息と大きな拍手が自然にわき起こった。「大人になれなかつた弟たちに…」群読大会の時

今年度、我が校では「イメー

ジ豊かな国語の授業」を目指し、授業の中に群読を取り入れていく。目で読み、口で読み、その声を耳で聞き、一度に三度読める音読の効果をねらった。

審査は、生徒同士で行い、グループ毎にA・B・Cの評価カードを提示することにした。一グループは四人である。ところが、我がクラスは男子二十一人、女子十五人とアンバランスであり、男子三人の中に女子一人というグループができてしまった。比較的小おとなしいT子に、

「大丈夫かな。」と聞くと、「大丈夫だと思う。」と言った。この班の男子は、クラスの中でも騒がしく、授業中のお小言を一手に引き受けている者が二人と、誠実だが、にぎやかし組に押され気味の級長である。果たしてどんな群読がで

きたがるのかと、少々不安がつのった。ところが、このにぎやかし組にも意外なエネルギーがあった。役割分担が一番早く、十分な練習時間を取ったのがこのグループだったのである。

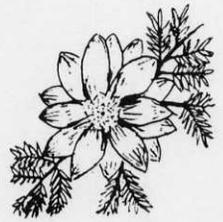
発表は五番目であった。四人は前に立つと、男子の堂々とした声から入り、飛行機の音全員で読んだ。四人の声と一人の



声を見事に使い分けた。おまけに、たった一人の女子の声を、母の悲しみの言葉の所で効果的に用いたのである。私の心配は杞憂に終わった。評価カードはほとんどAが上げられた。男子三人はガッツポーズをし、T子は照れて笑った。

次の日、T子の生活ノートには、こう書かれていた。「女子が一人で不安だったけど、O君やY君がものすごく頑張った。普段はどこか抜けていたより二人だけ、昨日はどこか違った。二人を見直してしまつた。また群読大会をやりたい。」  
初めての学級担任、国語の授業、悪戦苦闘の毎日であるが、時にはこんな楽しみもある。

お知らせ



■岡崎市美術館自主企画展  
「ピカソ石版画展」開催  
フェルナン・ムルロ工房所蔵のピカソの石版画一六〇点を一堂に展示し、石版画家としてのピカソの魅力を紹介  
期日 12月12日(火)～24日(日)  
月曜日休館  
開館時間 午前10時～午後6時  
入場無料

## 第十七回教育文化賞

### 明保・中村・山田氏と二団体

岡崎の教育文化振興に貢献した個人や団体の優れた業績をたたえる教育文化賞授賞式が、去る十一月十八日(土)岡崎市せきれいホールで行われた。

本年度は、個人十九点、団体十二点の推薦があった。選考の結果、次の個人三氏と二団体が受賞の栄に輝いた。

#### 個人

▼明保俊通氏(四十四歳)

岡崎市立六ツ美中学校教諭  
北設楽郡に天体観測所を開設し、ハレー彗星や流星の観測研究を推進。星を見る会を開催。

▼中村繁男氏(六十五歳)

岡崎市大西三丁目一三の二二  
米国の姉妹都市への中・高校

### 全日本中学校英語弁論大会 矢作中永田君、堂々二位

第四十一回高松宮杯全日本中学校英語弁論大会の決勝大会が十一月十一日、東京の読売ホールで開かれ、愛知県代表の矢作中二年、永田克巳君が見事二位に入賞した。  
永田君のテーマは、  
"Message to China."  
中国の天安門事件を契機に、中国への呼びかけを通して平和の尊さを訴えた。

### 全国ジュニア五輪陸上 竜南中四〇〇Mで三位

十月二十二日、東京の国立競技場で開かれた本大会の四〇〇メートルリレーで、県代表の竜南中チームは四四秒二五のベスト記録で堂々の三位に入賞した。  
リレーメンバー  
福田佳史 岡田豊文 三年  
西畑 匡 荒木淳吾 二年

### ■全国自作視聴覚教材コンクール、二作品入選

「とうろうづくり」  
岡崎市視聴覚ライブラリーと

現職教育委員会社会科部との共同制作。一人の石工の手作業のとうろうづくりを丹念に取材する一方、インタビュを通して業

界の後継者不足問題も取り上げている。  
・Body Language

現職教育委員会英語部制作。

オーストラリアからの交換留学生として光ヶ丘女子高に在学していたザラ・グリーンフィールドさんが、手招き、数の数え方など日米では逆の身ぶりを紹介している。

### ■一九八九年視聴覚教育奨励賞

甲山中学校現職教育部  
「『生氣溢れる授業』を目指すメディアの活用」で学校教育部門の奨励賞を受賞。

### ■第三十一回岡崎市中学生英語スピーチフェスティバル

十月二十七日、せきれいホールで、市内の全中学校から各学

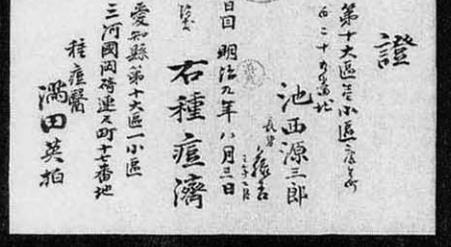
### 第22回岡崎市中学校新人総合体育大会

種目	性別	優勝	2位	3位	位
野球	男	福岡	美川	岩津	新香山
ソフトボール	女	城北	北常	矢作	東海
卓球	男女	岩津	美川	葵	六ツ美
バレーボール	男女	東海	新香山	矢作	北山
バスケット	男女	竜南	竜南	新香山	海作
ハンドボール	男女	竜南	美川	葵	六ツ美
剣道	男女	六ツ美	新香山	竜南	葵
体操	男女	東海	六ツ美	北山	東海
新体操	男女	東海	六ツ美	美川	海作
軟式庭球	男女	竜南	福岡	矢作	葵
陸上競技	男女	福岡	竜南	美川	北山
サッカー	男	矢作	南	北山	新香山
柔道	男	竜南	新香山	北山	葵
水泳	男女	矢作	北山	葵	葵

### ■第二十八回岡崎市小学校陸上競技大会

順位	性別	優勝
二位	男子	梅園
三位	男子	矢作南
二位	女子	梅園
三位	女子	竜美丘

# 泉



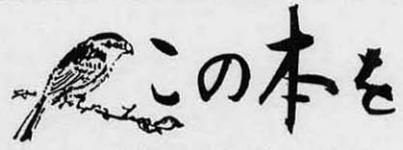
大平町辻重 河合澄江氏蔵

インフルエンザの流行期を迎えて、市内の各校で予防接種が行われている。  
 日本での予防接種は、明治九年、天然痘予防規則によって、種痘が強制された時から始まった。ジェンナーが種痘を発見してから八十年目にあたる。種痘以外の予防接種は、第一回の種痘から七十二年後の昭和二十三年、予防接種法の制定によって実施され、今日に至っている。  
 写真に取り上げた資料は、明治九年の種痘済証であり、日本で最初の予防接種を受けられた

方の所蔵品である。明治十三年と十九年の同人の種痘済証も残されている。現在では、ジフテリアの予防接種が生後六か月、小学校入学前、小学校卒業前に行われている。三期に分けて接種する方式は、明治の種痘以来実施されていることがわかる。  
 世界各地で猛威をふるった天然痘もWHOから根絶宣言が出されて、予防のための種痘は行われていない。そのため、免疫のない人間の数が増えている。万一の場合に備えワクチンは保管されているとのことである。

- ・表紙写真
  - ・表紙詩
  - ・カット
- 秦梨小 片山俊朗  
 秦梨小 青山永子  
 岩津小 水嶋直子

## 日本最初の 種痘済証



- \* 木に学べー法隆寺・薬師寺の美西岡常一  
小学館 ￥1400
- \* 知っているときっと役に立つ  
スポーツとからだの話33舟橋明男  
橋本名正  
黎明書房 ￥980
- \* 息子Gへの手紙  
リベルタ出版 沖直之  
￥1400
- \* 授業に自信がありますか  
明治図書 武田常夫  
￥700

### 地球環境報告 石弘之 ￥550

岩波書店  
 宇宙船地球号の船底には、いたるところに穴があいている。NASAの各衛星を初めとする観測によると、生態系の破壊と広範にわたる汚染とが、急速に進行しているという。

空も、川も海も、世界は一つにつながっている。日本だけが例外ではられない。本書は、地球規模のマクロな視野に立って、人類及び全生物を含めた地球生命の明日を、豊富な資料を折り込んで考えさせてくれる。

## オアシス

追われるような毎日を過ごしてきたような気がする。立ち止まってゆっくり自分を振り返ってみる時間が必要だ。  
 年の瀬に思うことはいつも同じだが、年毎に変わっていく子供たちの顔を見ると、何の変化もない自分が恥ずかしい。師走の空に、古い穀からの脱皮を誓う。巳年もわずか。

ジェンナーが種痘を始めておよそ二百年。  
 紀元前から数千年にわたり苦しんできた病気の根絶宣言が出て十年。不可能と思われることも、人間の英知で克服できることを証明した。  
 目標達成に向け人々が協力することの大切さと、人間の偉大さをここに感ずる。

朝の校庭に、木枯らしとともに吹き寄せられた落ち葉。色づきの変化を楽しませてくれたナンキンハゼの並木も、めっきり葉を落とし姿を変えた。  
 このころ、自然との触れ合いが少なく、無関心になったと言われる子供たちに、四季折々の変化に順応できる感性を育てたい。

素顔拝見。「この人に聞く」を取材する者の役得、一番の楽しみ。道を極めていく人の顔は美しい。「四人を引きつける魅力と威厳がある。「四十になつたら自分の顔に責任を持て」と言われる。さて、不惑の年を迎えた自分の素顔はどうか。子供たちはどう見ているか。我が道は教育にありて他になし。